



HAMANAKO NEWS

2013・秋 Vol.6

作品募集

浜松・浜名湖 アートフォトコンテスト 2013

あなたがつけたアートな西区を教えてください。



浜名湖をはじめとした豊かな自然、脈々と受け継がれてきた歴史と文化……。単なる風景写真やスナップ写真にとどまらない、新たな視点による写真表現の可能性、芸術性の高い作品を募集するのが「アートフォトコンテスト」。今までにない浜松、浜名の地域資源の新たな表情を発見し、撮影した作品をお待ちしております。浜松市西区は、浜名湖畔に位置し、観光産業、農水産業が盛んな地域です。また、来年4月には浜名湖花博の10周年事業が開催されることからテーマを「西区新発見」としました。



昨年度開催した「浜松・浜名湖アートフォトコンテスト2012～北区新発見～」入賞作品のご紹介



■テーマ 西区新発見！
■応募締切 平成26年1月5日
■賞・賞品 最優秀賞・5万円相当×1点、優秀賞・2万円(相当)×1点、入賞×10点、佳作×15点、浜名湖クラブ賞×10点(賞状、副賞西区特産品進呈)
■応募資格 不問。子供から大人までどなたでも歓迎します。
■応募要項の詳細は、浜名湖クラブホームページに掲載しております。

この秋も、浜松・浜名湖の魅力を探求しましょう！

五感体験教室 「天竜浜名湖鉄道、東ルートを探る」 ～秋の沿線見所を立ち寄りませ～

- 日時 H25年11月4日(日・祝)
- 集合場所 遠鉄電車・新浜松駅 改札前
- 集合時間 10時40分
- 参加費 3,000円(会員)、4,000円(一般)
遠鉄赤電・天浜線切符代、昼食代、シルクロードミュージアム入場料を含む
- 内容 遠鉄電車と天浜線を使用し、昼食は二俣本町駅より徒歩5分にある手作り豆腐と創作料理の店「ぎふや」へ。午後は、上野部駅より徒歩15分にあるシルクロード文化の美術品を展示する「シルクロードミュージアム」へ見学。夕方17時頃に西鹿島駅で解散となります。



五感体験教室 「西区まち歩き 村櫛コース」 細い路地、歩かなければ感じられない情緒があります

- 日時 H25年11月30日(土)
- 集合場所 お車でお越しの方 村櫛会館 ※駐車場有
公共交通機関でお越しの方 JR 東海道線弁天島駅
- 集合時間 9時50分 弁天島駅集合の方は9時30分集合。タクシーで村櫛会館へ
- 参加費 会員2,000円、一般3,150円 ※送迎利用者はプラス1,000円
参加費には昼食代が含まれます。それ以外の費用は各自実費。
- 内容 村櫛地区の歴史と文化を感じる名所・旧跡を散策。
昼食は、四季折々の新鮮な海の幸を提供する食事処「一徳」で。



五感体験教室 「年越そば打ち体験&忘年会」

- 日時 H25年12月15日(日)
- 内容 そば打ち体験と打ち立てのそばを用意し忘年会。
賛助会員・個人会員でそば打ちをされる方がおります。
その会員さんのご協力のもと開催いたします。
詳細は調整中のため、後日お知らせいたします。



浜名湖豆知識 その7

浜名湖の歌碑

浜名湖は万葉集には2首に登場しています。1293番の「霰降り遠つ淡海の吾跡川楊刈れどもまたも生ふといふ吾跡川楊」と3429番の歌の「遠江引佐細江の漣標吾を頼めてあさましものを」作者不詳で、後者は特に有名で、「浜名湖の引佐細江にあるあの漣標のように、あなたは私を信頼させておいて、やがてわたしへの思いが薄くなっていくでしょう。」という内容です。漣標は日本最古の海路標識として、今から約1200年前に都田川河口に浅瀬を知らせるために建てられた標識のことです。細江公園内文学の丘に昭和49年(1974)に歌碑が建立されています。この他にも浜名湖を歌った歌は数多く、正岡子規や郷土の文人、松島十湖、原田濱人、鷹野つぎなどが浜名湖を歌った歌碑が立てられていて、歌碑めぐりも楽しい旅の仕方となっています。

浜名湖クラブ会員名簿

平成 25 年 9 月 30 日現在 順不同 敬称略

正会員 法人・団体

須山建設株式会社
総合警備保障株式会社
西日本電信電話株式会社
浜松信用金庫
フロント産業株式会社
株式会社ユーシン
株式会社太平エンジニアリング
株式会社浜名湖国際頭脳センター
メディアミックス株式会社

正会員 個人

内田 重男 水島 加寿代 宮角 良介 徳山 博子
上田 芳伸 鈴木 建也 中村 公之 内山 正子
高橋 秀樹 近藤 良夫 堀田 孟

賛助会員 個人

荒木 信幸 池富 蓉子 柳原 一貴 齋木 英夫
中村 保 岩井 久考 宇佐見 靖 溝口 久
常吉 俊宏 下石 鐵夫 中西 敬宏 中野 眞
梶村 春彦 古橋 武司 熊田 博仲 外山 晴一
立元 稔章 小杉 邦雄 竹内 義臣 佐竹 玄吾
中川 貞夫 伊藤 賢 桑原 連吉 金田 国久
浅沼 宏和 前田 修 石川 純 中山 千恵子
藤田 明宏 鈴木 啓三 岡田 剛 徳山 清子
内野 浩三 佐口 征男 関 伸一 (家族会員)
久米 司郎 桑迫 仁志 高山 守人
山口 悦子 宮地 純夫 守屋 憲一

賛助会員 法人・団体

中日新聞東海本社

※住所、連絡先、担当者様などが変更となる場合は事務局までご連絡下さい。

■会員交流会「会員ZOOM 第3弾」 7月31日 報告



平成 25 年 7 月 31 日(水)、会員交流会「会員ZOOM 第3弾」を、今回は栄町の鴨江別館を会場に開催しました。

賛助会員・個人会員 岡田剛さん 日揮株式会社 08

韓国生まれ、島根県に引揚げ。静岡大学卒業後、エネルギープラントの計画・設計から工事まで手掛けるエンジニアリング会社に勤務し、長年海外プロジェクトのマネジメントに従事された岡田剛さんのお話を伺った。

日揮株式会社は、2013 年 1 月アルジェリアでの人質事件で話題になり、名前を耳にした人も多いのでは。この会社は、当初石油精製を目的として戦前に創設され、その後エンジニアリングで昭和 30 年代に急成長した。

これまでの経験から交渉について。『交渉』は、ゲームの理論のように国際的な研究課題にもなっており、ハーバードには交渉研究所があるほど奥が深い。交渉術はその背景に国民性、文化を持っているため、国ごとにスタイルを理解しないと国際的な交渉はできない。例えば、アラブ諸国は押しの一手。こちらが諦めて席を立ち、ドアを開けて出ていこうとするところで、やっと引き止められ、そこから腹を割った交渉がスタートするといった具合。アメリカは次々アイデアを出す狩猟型で押す。時間を重要視しないのがロシア系。中国では人を介して、事前の段取りをしてから交渉すべし。このように相手の特性を見て戦略を立てることが国際交渉には大変重要だ。

ゲストスピーカー 水野さえ子さん はままつシャツ部代表・服飾デザイナー

ゲストスピーカーは「浜松シャツ部」の発起人である水野さえ子さん。活動をスタートしたいきさつや、活動の様子、今後の夢などをお話いただいた。「はままつシャツ部」は、遠州織物で仕立てたはままつシャツで、地元の文化を創造したいと、2012 年 10 月に活動をスタートした。メンバーは、生地の産元、服飾作家だけでなく、大学教授やグラフィックデザイナーなど、さまざまな職業の人が参加している。まずは種まきをしたいと瓦版やブログ、フェイスブックで情報発信をし、内覧会や展示販売会、各種イベントに参加。一般の方にモデルになってもらい、ファッションショーも実施した。2013 年の 7 月から、和の生活雑貨店・四季彩堂 浜松有玉本店と静岡中田店で、はままつシャツが常設されることになった。活動を発信し、伝える場ができたことが大変嬉しい。メンバーと知恵を合わせて育てていきたい。ぜひ皆さんもはままつシャツに袖を通し楽しんでほしい。

※紙面の都合上、抜粋記事を掲載しております。詳細内容は、浜名湖クラブホームページ(<http://www.npo-hamanakoclub.jp/bizinfo/bizinfo07.html>)をご覧ください。

■五感体験教室「体験！たきや漁」 8月9日 報告



平成 25 年 8 月 9 日(金)、五感体験教室「体験！たきや漁」を開催しました。昨年度に引き続いての開催でしたが、漁に肝心の天候にも 2 年連続で恵まれ、沢山の方々の参加がありました。今年は、開催直前にカニに微弱の有毒があるとのことで、カニ類は捕獲できませんでしたが、サヨリ(右に掲載写真の右下の細い魚)が大漁で、船上から身を投げ出し網を水中に入れさっと揚げれば、サヨリが入っているほどの大量でした。夏の夜に、湖面に灯りをともし、銚や網を構えて獲物が現れるのをじっと待っていると、気が付けば自分が漁師になったかの様に真剣になり、子供の頃の遊びのように夢中になり時間を忘れてしまいます。水面に灯りを灯し漁をする風景は、100 年続く伝統漁法とともに、これからも夏の浜名湖に残していきたい風景です。来年も皆さんの声があれば、開催したいと思います。

■五感体験教室 ここが聞きたいインタビュー「3代30年！竜ヶ岩洞物語」 9月15日 報告

竜ヶ岩洞支配人 小野寺秀和さん
竜ヶ岩洞の祖ともいえるべき、初代代表の戸田貞雄氏とともに、洞窟の土をひと握りずつ掘り出し、現在の素晴らしい地域資源を誕生させた立役者、小野寺秀和さん(現:竜ヶ岩洞支配人)。30 年前の洞窟発掘のご苦労話や、これからの展開、さらに地域活動など、さまざまな視点からお話を伺いました。竜ヶ岩洞は、戸田貞雄さんの情熱からすべてが始まっている。夢は変化する。伝染していく。夢を持っている人の近くにいと、夢がうつっていく。それによって竜ヶ岩洞は歩んできたように思う。全戸 36 軒だけの小さな集落に、年間 60 万人(1983 年)が訪れるようになった。今や竜ヶ岩洞だけでなく地域全体へと観光への関心が広がった。竜ヶ石山の木を伐採し、富士山や浜名湖の眺望を楽しんでもらい、パラグライダー基地にも発展した。私自身も住民になり、地域の字名を二年半かけて解明した際、棚田の跡がいっぱいあることに気付いた。約 1 トンもある大石が急斜面に積み上げられた棚田を見つけ、昔の人がどうやって積み上げたのかと、目頭が熱くなった。昔の人たちは皆で助け合い、一年にひとつずつ互いの田んぼを作りながら生きてきた。その繋がりがやがてこうした石垣に残っているのだ。そのことをみんなにどうしても伝えたい。こうしてスタートした地域の棚田再生活動も 7 年になった。この活動が地域の絆づくりになっていることに、皆が少しずつ気づき始めているように思う。



※紙面の都合上、抜粋記事を掲載しております。詳細内容は、浜名湖クラブホームページ(<http://www.npo-hamanakoclub.jp/bizinfo/bizinfo07.html>)をご覧ください。

NPO法人 浜名湖クラブ 会員募集

どなたでもクラブ会員になることができます。会報誌、メールマガジン、イベント参加費割引等うれしい特典がいっぱい！〈入会金無料〉

〈正会員〉

クラブの運営や企画に積極的に参加してみたい方。議決権があります。

- ◎法人・団体会員 年会費 50,000円
- ◎個人会員 年会費 10,000円

〈賛助会員〉

クラブの催しに積極的に参加してみたい方。議決権はありません。

- ◎法人・団体会員 年会費 30,000円
- ◎個人会員 年会費 3,000円
- ◎家族会員 年会費 2,000円
(個人会員と住居を同一とする家族全員)

〈お申込み方法〉 ●お申込は入会申込書を郵送、FAX、メールでお送りください。入会申込書はホームページよりダウンロードできます。
●会費の納入手続きについては、事務局より追ってご連絡いたします。

〈寄付のお願い〉 ●当法人の活動に賛同し、ご支援いただける寄付についてもあわせてお願いします。

編集後記

先日、御前崎市佐倉にある桜ヶ池のお櫃納め行事を拝見。この池は諏訪湖と地底で繋がっていると言い伝えがある。浜名湖も諏訪湖と繋がっているなら、桜ヶ池に沈めたお櫃が浜名湖に浮く可能性も??? (水)

秋と言えば、何の秋を思い浮かべますか？もちろん食欲の秋は欠かせませんが、少しゆとりのある時間を作って、読書、音楽、美術、写真など。でも時間を作ることができないで断念することが恒例行事の秋です(悲)。(建)

ご縁がなくともいいますか、浜松生まれの浜松育ち、50 年以上住んでいて、この夏初めてたきや漁を体験しました。自宅から浜名湖は近く、子供のころから知り合いの和船に乗せてもらいアサリ採り、釣りには何度も来ていましたが、「ナイト・ハンティング」は本場に初でした。暗くなるのを待って、一斉にライトを点け、寄ってくる獲物を槍でつき、網ですくうのは、まさに狩猟のころに火がついたひと時でした。そして、浜名湖の素晴らしいと女性の一生懸命さにも驚嘆でした！建也

コラム・浜名湖ラム 第4弾！

事務局便り・お知らせ